

新競技規則について

目的【ハンドボールを よりスピーディーに・エキサイティングに・そして安心・安全に】

1) ボールの大きさについて

松ヤニを使えるか使えないか 使えない時に 軽く・小さい ボールの使用

※松ヤニを使わずに持ちやすいボールを開発中 → いずれは統一

2) パッシブ予告からのパス回数は4回へ

忘れてはならない視点

● 予告合図は無くとも、得点チャンスの放棄 や 時間稼ぎの逃げ回りは、相手ボールにできる。

以下の場合には 予防的声かけを行いながら、聞き入れない場合に合図へ

ウォーキングハンドボール

ゆっくりボールを回す・交代する・歩きながら相手陣へボールを持ち込む（素早く移動しない）

ゆっくり組立て、ペースを上げない、前を狙わないクロスを繰り返す などの場合

審判としての留意点

- ・フリースロー（以後F T）後すぐに予告合図をする → × 状況を見る
- ・前に攻めているときに予告合図を出さないこと → ドリブルや後方へのパスの時が妥当
- ・手を挙げるタイミングで【挙げます】の声と、パス回数をコール（1・2・3・4）

3) GKの頭部に対して（攻撃回数が増えればGKの負担は増える 安心・安全を）

GKと1：1の状況における前提は 相手の安全を守る という事

頭部へのシュートは 8:8bスポーツマンシップに反する行為（2分間退場）とする

※ジャンプしたGKに当てても同様

※強度や影響ではない。なぜ多くのコースがある中、あえて顔面に打つ必要があるのかという視点

※顔面・頭部とは、おでこから顎までで、明らかに当たってボールの方向が変わった時に判定
かすめる → これに該当しない

※明らかに空けた場所に蓋をするように動いたGK動作はこれに当てはまらない（ナイスセーブ）

※GKのコート上での治療は認められる

審判としての留意点

- ・再開はGKチームのF Tから（ゴールエリア外から → シュート地点）
- ・最終局面は立ち止まり、ペアで判断すること（コート・ボールから目を離さない）
- ・ウイング（サイド）のシュートは要注意

※コートプレーに対する顔面への措置等については、現段階ではF T時の顔面におけるREDのみである。
今後議論が進めば、コートプレーヤーへの適用も考えられる。

4) スローオフエリア（直径4mの円を引く：内側にライン）について

※センターラインは残っていても良い



スローについて

- 体とボールが エリア内 に入っていることが条件
- スローの完了は GKスロー と同じ
- スロー前のエリア内に入れるのは 味方のみ

※エリア内でパスが完了（2人目にボールが渡れば）すれば、相手も入れる

※スロー前に相手DFが、エリア内で触れる・ブロックする → 2min or 段階罰
リスタート（クイックスタート）が目的であれば2min。そうでないなら段階罰。

■ アドバンテージを観て、どういう影響があったのかをみて判定する。

- 走りながら出す → OK!
- ボールを出す前にエリアから出た → 相手F T
- ジャンプして投げた → 相手F T

■ その結果が相手ボールとなったならば、戻す必要は無い（違反した事プラスにならないように）

このルールを利用して退場者を出そうとする行為

- ・OF側が相手にボールを当てる
- ・防御されたように見せる

■ スポーツに 相手を減らすという目的はない！あえてそこに出す必要があるのかを判断。
ただし、結果的に影響があればダメ（リスタートの妨げなど）